

開始時刻を22日、都高野連が発表した。19日の抽選会で決まった組み合わせに、対戦チームの交通の便や多くの観衆が予想される試合といった事情を考慮した。

会場は東西計12球場。開会式は7月3日午後1時半から神宮球場で、試合は4日から始まる。使用予定だった明大球場の試合はすべて別の球場に変更になった。東西の決勝は8月2日、東京ドームで行われる。

第103回 全国高校野球選手権大会
主催/朝日新聞社・都高野連



3年生の幹部たち。丸山敦弘主将（左から4人目）や北野吾郎旗手隊長（同2人目）らが委員会をひっぱり＝豊島区

全力応援 選手と同じ喜びを

梅雨入りしたての東京。6月15日午後、体育館に集まった運動着姿の約20人が、蒸し暑さをね返すように声を張り上げた。「フレイムフレイム」。

中高一貫校の本郷（豊島区）には、2006年に生徒有志が

ひとりじゃない
それぞれの夏

本郷 応援委員会

前身を立ち上げた「応援委員会」がある。現在100人超の委員を擁し、体育祭など校内イベントで演技を披露するほか、運動部が試合する際には応援に駆けつける。

中学1年から続けている委員も多い。旗手隊長の北野吾郎さん（3年）もその一人。野球応援は「勝ったら選手と同じ喜びを味わえる。全力で応援するからこそその感覚」と話す。

ただ、昨年はコロナ禍で球場応援ができなかった。今春の都

「球場で声出せなくとも」

大会は球場へ入れたものの、声が出しや旗を掲げることではできず、静かに見守るしかなかった。野球場部の鎌田和夫主将（3年）とは高2で同じクラスになり、仲良くなった。昨夏に続き今年もスタンドで応援できるかわからないが、鎌田主将へは「球場で声は出せないかもしれないけれど、応援しているから」と伝えた。

できることなら、委員会で代々受け継いできた289センチ×365センチの旗を球場で掲げたい。「お互い最後の学年なので、旗で士気を高めたい」。

鎌田主将も、委員会の存在を心強く思っている。春の大会、スタンドから見守ってくれる姿がうれしかった。北野さんから「応援しているから」と伝えられた時も、「こんなに周りから支えられているんだ」と、その言葉が心に残った。

ベンチ入りした1年生の時、スタンドから届く応援委員会や保護者からのエール、吹奏楽部の演奏に驚いた。初戦で負けたしよかったが、応援の迫力は記憶に焼きついている。「今年こそ勝って、できれば、その姿をみんなに見てほしい」。

委員会は、たとえ球場応援が難しくても、大会前の壮行会で旗を掲げ、エールを送りたいと考えている。

7月2日に別刷り特集

朝日新聞社は、大会に出場する全チームのメンバー紹介や球場案内、応援インタビューなどを載せた別刷り特集を発行します。開幕前日の7月2日朝刊に折り

決勝 8月2日 15時30分 東京ドーム

（Aブロック）

（Bブロック）

（Cブロック）

（Dブロック）

（Eブロック）

（Fブロック）

（Gブロック）

（Hブロック）

（Iブロック）

（Jブロック）

（Kブロック）

（Lブロック）

（Mブロック）

（Nブロック）

（Oブロック）

◎＝第1、○＝第2、☆＝第3、△＝第4の各シード校

【大山・蒲田・橋】は大山、蒲田、橋
【葛南・聖学院・つばさ】は葛西南、聖学院、つばさ総合
【浅草・有明・科技・桐丘】は浅草、かえつ有明、東京科学技術、桐ヶ丘
【青井・足立東・三商】は青井、足立東、三商の連合チーム

東＝東京ドーム、神＝神宮、駒＝都営駒沢、江＝江戸川区、大＝大田スタジアム、府＝府中市市民、昭＝ネット多摩昭島、立＝市営立川

年越し 太陽は沈まない

白夜の船上でお祝い

2020年元旦午前0時、太陽は水平線の上に輝く。ほんのりあかね色に染まる海水のなか、アデリ「でも、出っぱなしだからさうかなあ」

南極は一日中、太陽が沈まなければ日の出もない。そんな会話を「しらせ」船上で交わしながら、私たち61次隊は新年を迎え入った。

年末に昭和基地入りしたのに船に舞い戻った。新しく来た隊は船上で年越しするのが恒例だ。昭和基地の主は60次越冬隊で食堂や通信室がある主要部を使い、

だと感じる。年賀状代わりにペン、の写真を付添いでツイッター投稿した。へんてこなアクセスは急上昇し、的に300万超！響。記事ではペンギンなわいな。2日、今度こそ昭和へ引越した。ヘリコプターは、荷物と自分合わせて1人100キ

大柄の持てな隊の新一クサイ、掲げた1階に切ったドが並夏宿は、やぶる。隊員は、らえた。うらさ、置き場、1年、で荷物、た。壊、いし、やパン、である。

『朝日新聞』（東京版）
令和3年6月23日（水）付朝刊